熊谷市
記者クラブ取材情報

令和4年2月24日発表
担当課：秘書課

タイトル
「令和4年度熊谷市表彰式」の開催について

1．日時　令和４年４月２日（土）　午前１０時００分から１１時１０分まで

2．場所　熊谷市立大里生涯学習センター「あすねっと」文化ホール

3．事業概要

　市政に功労のあった方々を表彰するため、「令和４年度熊谷市表彰式」を開催します。
　本市で最も権威ある、熊谷市表彰条例に基づく表彰では、本市の文化の興隆、福祉の増進、産業の発展又は自治の振興に貢献された５名の方々を表彰します。（功績は別紙参照）
　また、熊谷市表彰規則により、市政に功労のあった１１９名の方々の表彰に併せ、熊谷市職員表彰規程により５３名の職員を表彰します。

4．特徴やPRポイント

5．その他

来賓等規模を縮小して実施します。

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）

担当者　風間、右島
連絡先　０４８－５２４－１１１２（秘書課直通）

令和４年度
熊谷市表彰条例に基づく被表彰者
功績調書

令和４年度　表彰条例に基づく被表彰者一覧

No	部　門	氏　　名	性別	住　　所	年　齢	職　　名	担　当　課
1	文　化	腰塚（こしづか）　秋夫（あきお）　氏	男性	玉井在住	９０歳	熊谷市美術家協会顧問	社会教育課
2	福　祉	松永（まつなが）　勲（いさお）　氏	男性	中央在住	７８歳	元社会福祉法人 熊谷市社会福祉協議会会長	生活福祉課
3	産　業	木村（きむら）　進（すすむ）　氏	男性	柴在住	７３歳	元熊谷市農業委員会会長	農業振興課
4	自　治	加賀崎（かがさき）　千秋（ちあき）　氏	男性	佐谷田在住	８２歳	元熊谷市議会議長	議会事務局
5	自　治	嶋野（しまの）　正史（まさし）　氏	男性	三ヶ尻在住	７２歳	元熊谷市副市長	職員課

※ 年齢は、令和４年３月３１日現在

文化功労表彰

腰塚（こしづか）　秋夫（あきお）　氏（９０歳　熊谷市玉井在住）



元熊谷市美術家協会会長
第４６回埼玉県北美術展実行委員長
埼玉県文化ともしび賞（平成１９年）
熊谷市文化功労者（熊谷市教育委員会　平成２４年）

― 功　　績 ―

腰塚秋夫氏は、昭和４９年に熊谷市美術家協会会員となり、以来、事務局長、会長の要職を歴任し、同協会の運営に力を注ぐとともに、公募熊谷市美術展の発展に努めました。平成８年からは、１０年以上にわたり熊谷市勤労者文化展運営委員会委員及び審査員として、本市における勤労者の美術への意識の向上にも寄与されました。平成１５年には、第４６回埼玉県北美術展実行委員長として、史上最高の出品数となった県北展を成功へと導き、次の本市開催となった平成２３年第５４回展においても実行委員を務め、県北地域における本市の芸術文化振興への意識の高さを発信することに尽力されました。

また、長年にわたり写真を中心に市内美術団体や公民館事業において、講師として後進の指導を行い、写真技術の向上と継承に尽力されるとともに、公民館における写真クラブの設立や文化展への出品、近隣病院の待合室への写真常設展示等、地域に密着した写真美術の振興及び普及に貢献されました。

さらに、子どもたちの学校生活の一部をまとめた写真集「子ども達は学校で」及び日常の様々な景色や行事等を写真に収めた「いとなみ」の出版や、本市発行の「熊谷市史　別編１　民族編」では、昭和中期の市民のなりわいが伝わる写真を提供するなど、移り変わる郷土の記録を写真を通して後世に残されています。

このように、精力的活動と情熱により、本市における写真文化の普及、文化振興に寄与された功績は誠に顕著です。

福祉功労表彰

松永（まつなが）　勲（いさお）　氏　（７８歳　熊谷市中央在住）



元社会福祉法人熊谷市社会福祉協議会会長
元埼玉県市町村社協連絡会副会長
元社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会理事
元熊谷市自治会連合会副会長

― 功　　績 ―

松永勲氏は、平成２３年に箱田地区社会福祉協議会会長に就任されて以来、１０年の長きにわたり、地域福祉の向上に情熱を傾け、生来の温厚篤実な性格及び奉仕の精神で、市民福祉の増進に大きく貢献されました。

平成２３年から社会福祉法人熊谷市社会福祉協議会評議員、理事を歴任し、平成２９年６月からは会長に就任し、令和３年９月に退任されるまで、市民参加による福祉のまちづくりを目指し、地域福祉推進の中核的な役割を担う法人のリーダーとして、市や関係団体・機関及び地域住民などとの連携を図りながら、地域に密着した福祉活動を積極的に推進されました。その間、新型コロナウイルス感染症の拡大と長期化により、様々な場面において積極的な取組が難しい状況にある中、地域共生社会の実現に向け、地域支援事業のほか、新規事業として成年後見制度に関する事業を推進されました。

さらに、平成２９年からは社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会の理事及び埼玉県社会福祉協議会市町村社協連絡会副会長の要職を務められ、広域的な地域福祉の課題解決に尽力されました。

また、昭和４１年から公立中学校教諭に奉職し、平成１６年に熊谷市立三尻中学校長で退職されるまで教育分野で活躍されるとともに、平成２２年９月から熊谷市箱田宮本自治会長として、平成２６年１１月からは熊谷市自治会連合会副会長として、自治会活動にも貢献されるなど、本市の発展と市民福祉の向上に寄与された功績は誠に顕著です。

産業功労表彰

木村（きむら）　進（すすむ）　氏　（７３歳　熊谷市柴在住）



元熊谷市農業委員会会長
熊谷市農業委員会委員

― 功　　績 ―

木村進氏は、平成２４年９月に熊谷市農業委員会委員に就任し、以来現在に至るまでの長きにわたり、本市の農業生産力の向上及び農業経営の合理化に大きく貢献されました。

平成３０年９月には、法改正を受けた新たな農業委員会体制において、初代熊谷市農業委員会会長に就任され、耕作放棄地の解消など農地利用の最適化を積極的に推進するとともに、行政機関や市内の菜種油製油業者との協働による「熊谷ナナイロプロジェクト」の立ち上げを主導し、菜種の栽培と菜種油の商品化など、農産物の６次産業化にも尽力されています。

また、平成２６年１２月には「地域ぐるみの農業経営を目指して」をスローガンとした、小原地区の農家のおよそ４割が参加する「農事組合法人小原営農」の設立を先導し、平成２９年には代表理事組合長に就任され、集落営農の確立に寄与されました。小原営農は、地域の信頼感を醸成しつつ、農地中間管理事業の積極的な活用による、耕作面積の拡大や地域農業の持続的な維持・発展を支え、その功績により、平成２９年には「埼玉農業大賞 地域貢献部門」の大賞を受賞されました。さらに、令和３年にはＮＰＯ法人「熊谷市ほたるを保護する会」、「小江川１０００本桜事業事務局」などと連携した小原地域の活性化の取組が評価され、「豊かなむらづくり全国表彰事業」農林水産大臣賞に輝きました。

このように、地域住民や農業者の厚い信頼のもと、本市農業の振興と地域づくりに寄与された功績は誠に顕著です。

自治功労表彰

加賀﨑（かがさき）　千秋（ちあき）　氏　（８２歳　熊谷市佐谷田在住）



元熊谷市議会議長
埼玉県知事表彰（令和元年）
旭日双光章（令和２年）

― 功　　績 ―

加賀﨑千秋氏は、平成１１年５月、地域住民の厚い信望を得て、熊谷市議会議員に初当選され、以来５期２０年の長きにわたり、熊谷市議会議員として地方自治の振興のため献身的な努力と情熱を傾け、本市の発展に大きく貢献されました。

この間、市民経済常任委員会副委員長、議会運営委員会委員長の要職を歴任し、豊富な経験と卓越した識見を遺憾なく発揮され、広く住民の声を市政に反映させるとともに、多くの課題解決に力を注がれました。

こうした氏の優れた政治手腕と質実剛健で公平誠実な人柄が多くの信頼を得て、平成１５年に熊谷市議会副議長、また、平成１７年に熊谷市議会議長に就任されました。在任中は、優れた指導力で議会内の意見を取りまとめ、議会と執行部との綿密な連携を保ちつつ、効率的かつ円滑な議会運営に尽力されました。

また、熊谷市監査委員、大里広域市町村圏組合議会議員等、広範にわたり献身的に活動され、市政及び広域行政の充実と発展に貢献されました。

さらに、熊谷市人権教育推進協議会及び熊谷市同和対策審議会の委員を長きにわたり務め、人権教育及び人権啓発の推進に取り組んだほか、熊谷都市計画事業上之土地区画整理審議会の委員として、熊谷谷郷線及び第２北大通線の開通に尽力され、熊谷市東部地域のまちづくりに多大なる貢献をされました。

このように、優れた政治手腕と強い責任感、卓越した指導力により、本市の発展と地方自治の振興に寄与した功績は誠に顕著です。

自治功労表彰

嶋野（しまの）　正史（まさし）　氏　（７２歳　熊谷市三ヶ尻在住）



元熊谷市副市長
埼玉県知事表彰（平成３０年）
瑞宝双光章（令和２年）

― 功　　績 ―

嶋野正史氏は、昭和４８年、本市に奉職し、以来平成３０年に副市長を退任するまでの４５年余りの長きにわたり、地方自治の進展に尽力し、市政の発展向上に多大な貢献をされました。

この間、氏は、生活環境部長、環境部長及び総務部長の要職を歴任し、幅広い業務全体を把握し、適切な判断力と助言、行動力により市政運営の中心となり、その力量を遺憾なく発揮されました。特に総務部長としては、平成１７年１０月及び平成１９年２月の２度の合併を経て、市の組織が大きくなったなか、執行部における総合責任者として、職員間の融和と育成に努めたほか、市議会との調整に意を用い、円滑な議会運営に寄与することにより、市政進展に尽力されました。

こうした氏の長年にわたる幅広い行政経験と卓越した行政手腕が高く評価されて、平成２２年４月に熊谷市副市長に任命されました。副市長在任中は、特例市の副市長として市政全般にわたって市長を補佐し、豊富な経験と知識を糧に強い指導力を発揮し、計画的かつ円滑な市政の発展に多大な貢献をされました。

特に、合併後の市の方向性を定めた熊谷市総合振興計画の実現に向け、リーディングプロジェクトであるスポーツ・文化村「くまぴあ」の整備や、暑さ対策事業の推進に尽力されるとともに、第２次熊谷市総合振興計画の策定にもリーダーシップを発揮されました。

このように、本市の発展と地方自治の振興に寄与された功績は誠に顕著です。